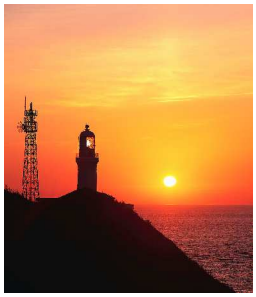
SHIMANE AKAHIGE BANK

島根の地域医療

2010／1／10　第３１号

発行先
島根県健康福祉部
医療対策課医師確保対策室



今回の紙面

◆年頭のごあいさつ《木村清志》　◆地域医療最前線 NO.36《日野理彦先生》
◆助産師さんのページ《近藤美穂さん》　◆研修医のページ NO.20《山本悦孝先生》
◆地域医療教育連絡会　◆臨床研修指導医講習会　◆初期・後期臨床研修プログラムセミナー
◆第３回地域医療支援会議　◆地域医療支援コーディネータ養成 NO.3

年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療企画監
木村　清志

皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は、医療対策課、医師確保対策室に多大なるご支援、ご協力をいただきましてありがとうございました。本年も変わりませず、どうぞよろしくお願い致します。

昨年は政権が交代し、診療報酬も、十年ぶりにわずかながら増額改定となりました。この改定に対する評価は様々ですが、今後、診療報酬の具体的な配分を含め、地域医療の確保に繋がる国の政策に期待するところです。

また、地域医療支援会議等で、作夏以降検討を重ねて策定してきました「地域医療再生計画」の具体化が今春から始まります。この計画（計画期間：Ｈ21～Ｈ25　事業費：50億）は、医師、看護職員不足や救急搬送体制など地域における医療課題解決のため諸施策について定めたものです。「医師確保対策」を中心に「医療用ヘリコプター」「ＩＴを活用した地域医療の支援」「看護職員確保対策」「がん予防・検診対策」の５本の柱を掲げ、即効性のある医師、看護職員確保対策に併せ、マンパワー不足を補うための対策を実施することにより、離島・中山間地域の医療機能の維持・推進を図ることとしています。これまで以上に、大学、医療機関、市町村、そして住民の皆様と力を合わせ、着実にそして効果的に実施していきたいと思っております。

また、昨年十月に実施した「勤務医師実態調査（対象：全病院と公立診療所）」では、県全体で約２６０人の医師が不足しており、地域別では雲南・県西部の圏域で減少傾向が見られ、診療科別では、外科、整形外科での不足が深刻化しています。

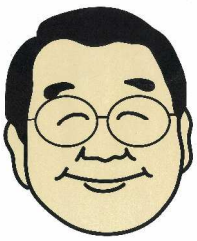
同時期に実施した「看護職員実態調査（対象：全病院）」では、県全体で約３５０人の看護職員が不足しています。

年々医師確保の厳しさを、身をもって感じているところではありますが、本年も全力で取り組んでいく所存ですので、皆様方の変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

地域医療最前線 NO.36

新生浜田医療センターがスタートしました

病院長　日野　理彦



国立病院機構浜田医療センターは21年11月1日に浜田駅北の浜田市浅井町に開院しました。そして新生浜田医療センターとなりました。建物が新しくなり電子カルテになっただけではありません。島根県成人病予防センターと機能統合して健診センターを新設しました。島根県及び浜田市そして市民の皆様のご支援によって設備・装備も島根県西部の中核病院にふさわしい病院に整備していただきました。第二県立病院とも、浜田市民病院ともいわれる所以です。これまでとは違う新生浜田医療センターになり、任務は重いと考えています。レベルの高い総合医療センターを目指します。そのためには教育・研修・臨床研究にさらに力を注ぎます。病床数３６５床、救命救急センターを

拡充し、緩和ケア病棟、リハビリ病棟、特殊疾患療養病棟を新設しました。救急医療は医療の根幹をなすものです。救急スタッフは順次、山口大学救命救急センターでの6ヶ月間の研修に派遣しており、これを継続しております。すでに3年目に入りました。がん診療の向上は地域の強い要望であります。島根県・浜田市・市民の皆様のご支援でPET－CTを導入していただきました（県内で2台目）。高精度放射線治療装置（IMRT）を導入し、手術室を拡充しました。外来化学療法室を拡充し、緩和ケア病棟を新設しました。循環器病診療は主要部門であり3階に集約し、生理検査室、カテーテル検査室、64列CT、病室および循環器内科診察室、心臓血管外科診察室をワンフロアに配置しています。島根県西部で唯一の心臓血管外科であります。糖尿病内科・内分泌代謝内科の2名態勢で糖尿病診療を充実させつつあります。産婦人科は山口大学と島根大学、外科は鳥取大学と島根大学とのコラボレーションで構成されています。大変特徴的なことです。関係の大学・教室に感謝申し上げます。これからの病院においては柔軟な人事が必要と思います。

新病院全景

現在、標榜診療科26科、医師は常勤医師数43名、臨床研修医4名です。神経内科医が欠員です。麻酔科医1名です。まだまだ医師不足は続きます。22年度には常勤医師が若干名増員予定です。臨床研修医は10名になる予定です。さらに活気が出てくるでしょう。21年11月に浜田市のご支援を頂いて病院の近くに研修医宿舎（9戸）を新築しました。住み心地は良いそうです。

新病院2階と浜田駅2階は連絡路で直結していてとても便利です。浜田市のご支援でできたものです。そのため、病院の総合研修センターは院外公的団体の行事にも良く利用されています。開かれた病院、地域と連携する病院でありたいと思います。活気のある病院を見に来て下さい。

助産師さんのページ

特集

松江生協病院
生協きらり助産院
責任者　近藤　美穂

『生協きらり助産院』で、去る10月22日に、待望の第1号の赤ちゃんが誕生しました。立ち会った2人のお兄ちゃんの応援のもと、みんなで赤ちゃんの誕生を迎えることができ、とても温かいお産になりました。私たち助産師にとって、妊娠期からずっと関わってきた妊婦さんの分娩を無事に終えることができたことは、大きな感動であり、自信にもつながりました。

ところで、なぜ私たちが病院内で助産院を目指すことになったのでしょうか。

松江生協病院では産科発足以来、年間約200件の分娩を取り扱ってきました。しかし平成20年1月、産婦人科医が1名体制になることで、分娩休止が決定してしまいました。助産師が次々と退職し、産婦人科病棟も閉鎖に追い込まれました。そんなどん底の中、当院で出産されたお母さん方が、分娩再開を求める2000筆の署名を集めてくださいました。

『お母さん方の気持ちに応えたい」今までの生協の良さをより生かしたお産がとりたい」という助産師の気持ちが一致し、分娩再開の形として、病院内助産院の開設を目指すことになったのです。

そして、分娩休止になってから1年半の今年7月、ローリスクの妊産褥婦さんを対象に、助産師が主体となって助産ケアを行う独立型の病院内助産院を開設しました。助産院のメリットは、妊娠期から助産師外来で継続して関わるので、妊婦さんとの強い信頼関係が築けること。そして、病棟勤務時代は他の業務に追われて分娩にゆっくり関われないジレンマと戦っていましたが、助産院では産婦さんに付きっきりで寄り添うことができるということです。反対に、分娩の時に医師の立ち会いがないので、全て自分たち助産師だけで判断していかなければいけないことへの戸惑いは助産師の中にもありました。そのためには、助産診断能力を磨くことが必要ですし、お母さんやそのご家族との信頼関係も必要だと実感しています。

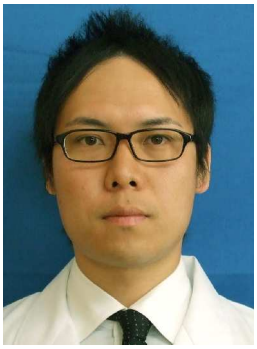
まだまだ始まったばかりで手探り状態の助産院ですが、開設までの道のりを共に戦ってきた6名の助産師チームで力を

合わせ、何より安全第一に、助産院を選んでくださったお母さん一人ひとりが自分らしいお産や育児ができるよう、サポートしていきたいと思います。

研修医のページ

NO.20

松江赤十字病院 2年目研修医 山本 悦孝



初期臨床研修制度で自由に研修病院を選択できるため、私は出身地である松江で研修することを選びました。松江赤十字病院を研修病院に選んだのは、まず松江が好きだということ、私が育った橋北地域にあるといった単純なことからでしたが、二年間研修をしてこれからもこの地の医療に役に立ちたいという思いが強くなりました。

松江赤十字病院は松江地域の中では中核病院としての役割を果たし、三次救急も担っています。それゆえ、松江のみならず隠岐からもたくさんの患者さんが来られます。研修医は病棟業務に加え、夜間・休日の救急外来でも仕事をすることがあります。そこで出会う患者さんは多種多様で非常に勉強になる場でもあります。重症も多く、何人も重なると救急外来はベッドがいっぱいになり、まさに猫の手も借りたい状態なのですが、医師は内科系一人、外科系一人の二人であり迅速な対応をすることが難しくなります。しかし、それでも先生方は冷静に患者さん一人ひとりに丁寧に対応し、時間があればミニ講義などしてくれたり、手技を教えてもらい処置を任せてくれたりもしました。また、処置に関しては看護師さんの方もよく知っておられ、色々と教えていただきました。二年間で内科、外科、救急科、麻酔科、精神科、産婦人科、小児科などを経験しましたが、どの科でも先生方、看護師さんは非常に忙しく動かれており、邪魔してしまうのではないかとも思うこともありましたが、終わるときはこの科でやってみたいと思うほど充実した研修を経験させていただきました。松江赤十字病院は医師、看護師の数としては充足している状態ではありませんが、非常に大きな教育力を持っていると感じました。

前述のようにスタッフは非常に忙しくされており、やはり医師・看護師の不足を感じました。知識・技術はまだまだ未熟ですが、少しでも役に立てていると感じることができた時に喜びを感じ、もっと役に立ちたいと思いながら仕事をしています。今はまだ微力ですが、いずれスタッフの一員として少しでもこの地域の医療に役に立ちたいと思っています。

地域医療教育連絡会

島大医学部は、県内40以上の医療機関の協力のもと、6年次に地域医療実習を実施します。この実習は、大学病院で経験できない様々な医療の側面の学習や、医療全体を見渡すことの出来る広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めることを目的としています。

9月から10月にかけて、県内6地区を会場に開催された「地域医療教育連絡会」では、各地区の実習医療機関から参加いただき、意見交換を行いました。指導医に対する学生の声や学生に対する指導医の声の報告、参加された先生方からの学生指導への思いや期待など、熱心なやり取りがありました。

【医療対策課 藤井】

臨床研修指導医講習会

厚生労働省の指導医講習会開催指針に基づく「平成21年度島根県臨床研修指導医講習会」が11月21日～23日の日程で島大医学部でありました。

今年で5年目となるこの講習会に、県内6カ所の臨床研修病院から37名の医師が受講。5グループに分かれ、「地域社会が求める医師の基本的臨床能力とは」をテーマに、熱のこもった講習会となりました。

一分間指導法として「意見を聴く」「根拠を確認する」「原則を教える」「よい点を認める」「改善を図る」の実践や、「良い指導医」「悪い指導医」「無責任な指導医」のロールプレイなど、実務を意識した内容もありました

た。

講師として名古屋大学医学部附属病院総合診療部伴信太郎教授をはじめ、県内外の６名の先生方にお願いし、連日遅くまで、各グループの進捗状況を確認し、綿密な打合せのもと運営していただきました。その熱意が受講者にも伝わる濃密な研修でした。

【医療対策課　藤井】

初期・後期臨床研修プログラムセミナー

県内の臨床研修病院が、魅力的な研修プログラムを構築するための一環として、12月12日、厚生労働省中国四国厚生局市場洋三先生を招き、臨床研修制度の改正趣旨やその内容についての講演をいただきました。

平成16年度から導入されたこの制度は、研修医のキャリア形成に必ずしもうまくつながらず、大学の医師派遣機能が低下して医師不足が顕在化するきっかけとなったことを一因に、来年度に制度改正されます。「研修医のスムーズなキャリア形成」「大学の医師派遣機能の強化」などの観点から、研修の質の一層の向上を図り、島根全体で医師を育てる仕組みづくりに取り組む必要性を再確認しました。【医療対策課　藤井】

第３回地域医療支援会議

県内の離島・中山間地等の医療機能の確保を目的に、今年度３回目となる地域医療支援会議（＝写真）を、12月25日に開催しました。

まず、地域医療の支援に積極的に取り組む「地域医療拠点病院」（現在18病院指定済）として新たに各圏域から推薦のあった、「安来第一病院」「益田赤十字病院」「六日市病院」の指定について審議、賛同されました。今後指定の手続きが進められることとなっています。

次に、過疎地域にある公立病院・診療所等から、自治医大卒業医師の派遣要望や、医師不足に関する厳しい地域医療の現状などが報告されました。地域医療の維持に必要な、医師のサポート体制、地域住民の取組、教育環境の整備など幅広い内容の意見交換がなされました。今回の要望を受けた派遣計画案は、第４回同会議で審議することとしています。

【医療対策課　太田】

地域医療支援コーディネータ養成

NO.3

県内医療機関等での充実した地域実習を終え、それぞれの組織が工夫をしながら医療を支えている現場を見ることができました。それと同時に、私たちに求められていることが多様であると実感しました。

その期待に応えるためにも、コーディネータという人材が様々な方面から増えていくことが必要です。『島根の地域医療をより良いものに』という目標を掲げ、一緒に力を尽くしていただける仲間が、一人でも増えることを願っています。

【菅森】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。　また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県医療対策課医師確保対策室
TEL 0852-22-6684　FAX 0852-22-6040
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/